



月例山行

8月の錫杖ヶ岳は中止

▲迷走台風10号、大陸からの高気圧に遮られ足が遅く、迷走、蒲郡では土砂崩れで3人死亡2人ケガ。全国でも8人が死亡、129人がけがをした。愛知は直撃を免れたが、進路など見通しが難しい中、山行も中止した。

月例会は 新会場の矢田小学校へ

▲この9月から、東区矢田小学校へ例会場を移転した。低廉な使用料と駐車無料がありがたい。使い勝手の評価はこれから！



山岳遭難を考える

▲我が国の登山人口は、概ね500万人程と言われる。四季を通して、遭難事故が多発している。気力、体力、時間のある中高年者も多い。情報も簡単に入手でき、山は近くなったと言える。

かつては、学生や社会人山岳会などの組織的な活動部隊が主であったが、近年は未組織者の増加が顕著だ。他の分野でもそうであるが、組織に属することを嫌う傾向がある。そうした中、ソロ登山の増加も見逃せない。山は低山といえど、それ自体非日常である。

▲この夏、富士山の遭難が多発した。昨年の登山者は221,000人、今年は外国人の遭難事故も多く報道され、無計画なグループも多いと聞く。



環境庁の調査では、吉田ルート24.5%、富士宮ルート11%が外国人と言う。

▲万が一遭難した場合、どのような事態が生じるか？ 道迷い、転落、滑落、疲労、低体温症、などでまずは**救助要請**。スマホの電波が届くか？ 電池切れは大丈夫か？、救助ヘリは視界が悪いと飛べない。無料だが埼玉県は有料化された。民間ヘリは1時間100万円が相場とも言われる。ヘリが使えない場合は、地上の救助隊が出動する。民間の救助隊は日当が1~3万円、人数によるが1日50万円程は見ておくことが必要という。大規模な捜索は、膨大な費用を覚悟しておく必要がある。因みに当会は、日山協山岳共済会の保険**Sタイプ**（入院補償なし）に加入で、**遭難捜索費用は100万円**、最高の1Dタイプでも300万円である。

▲金銭だけではない、心しての山行を楽しみたい。——— 織田

木曾駒の雷鳥復活事業



▲中央アルプスではおよそ半世紀前にライチョウが絶滅したとされるが、2018年、**北アルプス・乗鞍岳**方面から飛来したとみられるメス1羽が確認され、**環境省**の復活作戦が始まった。乗鞍岳から家族ごと移送したり、動物園で繁殖した家族を放したりして、今季は中央アルプスで成鳥120羽以上が生息しているとみられる。

環境省は、2021年巢で雌が卵を抱いているのを確認したと発表（R3年7月中京NEWS

No.149で既報）愛らしい姿で、登山者の目を楽しませてくれることを期待したい。

